

「令和4年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議」開催要領

1. 目的

環境省が実施した令和3年度環境測定分析統一精度管理調査結果の評価や精度管理の問題点を議論することにより、地方公共団体が設置する試験研究機関等の環境測定分析業務の信頼性の確保と分析精度の向上を図ることを目的として開催する。

2. 主催

全国環境研協議会（精度管理部会）
環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室

3. 参加者

全国環境研協議会所属機関の環境測定分析に従事する職員
地方自治体において環境行政に従事する職員で参加を希望する者

4. 開催時期・方法

令和4年度ブロック会議（令和3年度調査結果説明）の日程は全国環境研協議会（精度管理部会）並びに各ブロックの幹事と調整の上、決定する（6月から7月頃を想定）。開催場所は例年どおり5ブロックで開催するが、令和3年度と同様に今年度についても新型コロナウイルス感染症対策のため、特例的にWeb会議又は書面会議とする。Web会議の場合は、環境省、日本環境衛生センター、調査部会専門員は各所在地からWebで参加し、ブロックを構成する参加者は、それぞれのブロックの取り決めに従って参加する。Web会議室は環境省又は日本環境衛生センターが設置する。

- (1) 北海道・東北ブロック（幹事：秋田県健康環境センター）
- (2) 関東・甲信・静ブロック（幹事：横浜市環境科学研究所）
- (3) 東海・近畿・北陸ブロック（幹事：石川県保健環境センター）
- (4) 中国・四国ブロック（幹事：徳島県立保健製薬環境センター）
- (5) 九州ブロック（幹事：佐賀県環境センター）

5. 会議の内容

議事や構成などの内容は基本として各ブロックの要望に従う。会議の際には、まず概略を各担当の講師が手短かに説明し（10分程度）、その後質疑応答（10分程度）を行なう。

担当講師（専門員）の調整は、ブロック会議の日程が確定次第行なう。調査結果等に関する事前の質問がブロック会議参加者からあった場合には、該当する専門員等が回答を作成したものを、会議における資料とする。

次頁に進行シナリオの例を示す。

進行シナリオ例

事項	時間	担当機関
1. 開催の挨拶	5分	開催機関の長 環境省水・大気局総務課環境管理技術室室長
2. 令和3年度環境測定分析統一精度管理調査結果について	5分	調査実施機関（請負先）から調査結果の概要報告
3. 環境測定分析における留意点及び精度管理について	5分	有識者3名（環境測定分析検討会統一精度管理調査部会専門員）による調査結果の報告（試料ごとに10分＋質疑応答各10分程度を予定）。分析上の問題点、分析結果に影響する因子等について具体的かつ重点的に解説。
(1) 模擬排水試料（一般項目等） 質疑応答1	60分	
(2) 模擬水質試料（ノニルフェノール等） 質疑応答2		
(3) 模擬PM2.5試料（無機元素） 質疑応答3		
4. 質疑応答（全体）	10分	
5. 次期開催機関からの挨拶	5分	次期開催機関
6. 閉会の挨拶	5分	開催機関

(備考)

1. 議事の作成、進行は開催機関が行う。
2. 開催時間は、全体で1.5～2.0時間以内を目安とする。
3. 開催に当たっては、都道府県、政令指定都市の環境行政担当部局からも参加者を募集する。
4. 上記は、ブロック独自の講演等を実施しない例である。独自の講演等を実施する場合には、上記に追加する又は表中のいずれかの講演と替えることも可能とする。

6. その他

会議の庶務（下記を除く。）は、全国環境研協議会（精度管理部会）が行う。

環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室は、会議の庶務のうち、有識者及び調査実施機関担当者の会議への参加に関する事務を行う。